

## 用語解説

(五十音順)

=あ=

### □ 栄養診断

適時に適切な施肥を行うため、土壌からの養分の供給量に応じて濃度が変化する作物の部位を分析し、その状態を把握すること。

### □ SDGs(エスディージーズ:持続可能な開発目標)

Sustainable Development Goalsの略で、平成27年(2015年)9月の国連サミットで採択された、2030年までの先進国を含む国際社会全体の開発目標。17のゴール(目標)とその下位目標である169のターゲットから構成される。すべての関係者(先進国、途上国、民間企業、NGO、有識者等)の役割を重視し、「誰一人取り残さない」社会の実現をめざして、経済・社会・環境をめぐる広範囲な課題に統合的に取り組むこととしている。

### □ 温室効果ガス

太陽から地表にとどいた熱を受けて地表から放射される赤外線を吸収し、吸収した熱を再び地表に向かって放射することで、地表を暖める効果を有するガス。温室効果ガスの適度な温室効果により地球の生態系が保たれる一方、人間活動によって増加した温室効果ガス(二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロンガス)は、地球温暖化の原因と考えられている。

なお、我が国の温室効果ガス排出量のうち農林水産分野からは2.8%を占める。

=か=

### □ 高温障害

農作物が通常よりも高温下で生育することにより、例えばトマトの肩部の着色不良や大根の内部褐変、いちごの奇形果などが発生する。地球温暖化の影響で発生が増加することが懸念されており、高温耐性を持つ新たな品種開発や高温下での生産安定技術の開発が求められている。

=さ=

### □ 食育

様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を有し、健全な食生活を実践することができる人を育てること。

#### □ 生物多様性

生態系や生息環境などに様々な生物が相互関係を保ちながら存在していること。生態系（森林・湿地・湖沼など）、種（動物、植物、微生物など）、遺伝子（ある種の中の個体差）の3つの視点から説明されることが多い。

#### □ センシング技術

センサーを利用して、気象や電磁波、画像など様々な情報を収集、活用する技術。農業分野では、衛星画像等を用いたセンシングデータとほ場履歴や作物の生育データを組み合わせて解析して最適な栽培管理や作業計画の策定に活用したり、ドローンにより撮影した画像を分析してピンポイントで行う防除や施肥などに活用するなど、生産性や品質の向上への利用が期待されている。

#### □ 総合的病害虫・雑草管理(IPM)技術

利用可能なすべての防除技術を経済性を考慮しつつ慎重に検討し、病害虫・雑草の発生増加を抑えるための適切な手段を総合的に講じて、人の健康に対するリスクと環境への負荷を軽減あるいは最小にする水準にとどめる技術。病害虫・雑草の発生しにくい環境を整える予防的措置、防除要否及びタイミングの判断、生物的防除（天敵やフェロモン等の利用）や化学的防除（農薬散布等）、物理的防除（粘着板や太陽熱利用消毒等）など様々な手法を組み合わせた防除の3点の取組を行うことが基本である。

IPMは、Integrated Pest Managementの略。

=た=

#### □ 地方独立行政法人北海道立総合研究機構

平成22年(2010年)4月に22の道立試験研究機関が統合した道出資100%の地方独立行政法人。産業分野別に6つの研究本部があり、農業研究本部には、5農業試験場（中央・上川・道南・十勝・北見）及び酪農試験場、畜産試験場、花・野菜技術センターの8つの試験場がある。

#### □ 天敵昆虫

自然界において、2種生物間で、片方がもう片方を特異的に食べるという関係がある場合に、食べられる側からみて食べる側の昆虫を指す。有機JAS規格で使用が認められている天敵等生物農薬は、病害虫・雑草の防除に利用される微生物、天敵、寄生昆虫などを施用しやすく、かつ、効力を発揮しやすいよう製剤化したもの。

#### □ 土壌への炭素貯留

農地に施用される堆肥や緑肥、農作物の残渣等の有機物は、多くが微生物により分解され大気中に放出されるものの、一部が分解されにくい土壌有機炭素となり長期間土壌中に貯留される。堆肥や緑肥等の施用による土づくりを通じた土壌への炭素貯留の促進は、農林水産省地球温暖化対策計画において、農地土壌吸収源対策に位置付けられている。

=は=

#### □ 病虫害発生予察

病虫害の発生状況、気象、作物の生育状況等に関する調査を実施し、調査結果を解析して病虫害のその後の発生を予測し、これに基づく情報を関係者に提供すること。

#### □ 富栄養化

生活排水や工場排水、農業排水などに含まれる窒素やリンなどの栄養物が湖沼や内湾などへ流れ込み、水中の植物性プランクトンや水生植物が増殖、繁茂すること。富栄養化により水中の溶存酸素が不足すると、魚類等が死亡するなどの影響が生じる。

#### □ 北海道施肥ガイド

平成27年(2015年)12月に道が作成した施肥標準等を示した技術指導書。良質な農産物の安定供給、生産コストの低減及び環境負荷の軽減に配慮した合理的な施肥管理・土壌管理を推進することを目的に、主要な作物について、地帯別・土壌別の標準的な施肥量、土壌診断や作物栄養診断に基づく施肥対応などを示している。

#### □ 北海道における有機質資材利用ガイド

平成17年(2005年)3月に道が作成した有機質資材の利用に関する技術指導書。有機質資材がより適切に利用され、土づくりに役立てられるよう、有機質資材の種類と特性や施用基準、堆肥化のポイントと品質、環境への影響、実際の利用上の取扱などについて、できるだけわかりやすく解説している。

#### □ 北海道病虫害防除所

植物防疫法第32条の規定により設置している道の出先機関。北海道立総合研究機構からの情報や札幌管区气象台からの気象予報等に基づき、主要病虫害の発生量や発生時期の予測をするとともに、必要な防除対策を関係機関・団体等に提供する病虫害発生予察の業務や、農薬安全使用の推進、国内未侵入病虫害の警戒調査などを行っている。

□ **北海道緑肥作物等栽培利用指針**

平成16年(2004年)3月に道が作成した緑肥作物栽培に関する技術指導書。各緑肥作物の特性を十分に活かして、それぞれの地域で「土づくり」を基本とした環境にやさしい農業が実践されるよう、後作緑肥や間作緑肥、休閒緑肥の栽培の要点や、イネ科及びマメ科、アブラナ科など各緑肥作物の栽培利用指針などを解説している。

=ら=

□ **6次産業化**

1次産業としての農林漁業と、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取組。